

子ども医療費助成制度
について問う！



荻原 久雄
議員

問 子ども医療費の現物給付対象年齢拡大について市長の考えを聞きたい。

市長 これまで市民アンケートや市議会一般質問、さらには多くのお母さん方から継続した要望が寄せられていた。そうした中、シニア世代や高校生から「子どもたちのために」という心温まる支援があり、私の目指す市民力が息づいていくことに大いに感銘を受けるとともに、拡大への大きな

後押しをいただいた。そのため多くの事務事業を見直すことで、必要となる約1億5千万円の財源の確保に見通しを立て、拡大することを決心した。



◆産業振興

問 新産業団地の候補地について、選定の進捗状況を聞きたい。

市長 庁内プロジェクトチームで絞り込んだ3候補地の開発可能性を総合的に勘案し、あがた駅南産業団地の北側地区を新たな候補地として選定した。まずは地元の皆様のご理解とご協力が得られるよう丁寧に事業の説明を行い、引き続き県や国との協議を密に進めていきたい。

JR両毛線を活用した
まちづくりについて問う！



大須賀 幸雄
議員

問 JR両毛線を活用したまちづくりについてどのように考えているのか。

市長 鉄道は沿線地域との連携によりまちづくりの好循環を生み出す重要な役割も担っている。

JR東日本との良好な関係を十分に生かし、本市のみならず沿線地域全体の発展につながるよう、元氣と輝きに満ちた未来をしっかりと見据えながら一歩一歩力強く取り組んでいく。



▲足利市を東西に走るJR両毛線

◆危険な空き家・空き地への対応

問 平成30年6月に所有者不明土地の利用の円滑化等に関する特別措置法が成立したことは、危険な空き家等の有効な解決手段の一つと考えるが、本市ではどのように対応していくのか。

都市建設部長 同法の施行により、空き家等を適切に管理する上で必要がある場合、地方公共団体の長も家庭裁判所に対し、財産管理人の選任を請求できるようになった。危険な空き家の解体や跡地の利活用促進にもつながることから、本制度の積極的な活用を検討していきたい。

「子ども基金」の
創設を！



大島 綾
議員

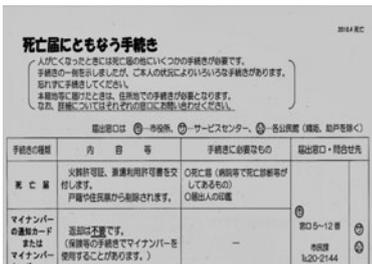
問 子どもたちが次世代を支え得る人材へと成長できるように、社会全体で子育てを応援していくための「子ども基金」を創設してはどうか。

市長 同基金については具体的な理念や管理運営などを詰めていく必要があるほか、使い道もさまざまな方法が考えられるが、まちの宝となる未来の子どものために有効に活用していくことが肝要と考え、どのような方向で進めることが効果的なのか研究していく。

◆遺族支援窓口の設置

問 大切なご家族を亡くしたご遺族が煩雑な行政手続きを1カ所で行えるような窓口を設置し、市民サービスの向上を図ってはどうか。

生活環境部長 本市では死亡届の受付時に死亡後の手続きをまとめたリーフレットを配布しているが、より正確で適切な対応ができるよう、具体的な手続きや申請は各担当窓口で行う方法をとっている。今後も関係窓口間で連携を図りながら、ご遺族の心情に配慮した市民サービスの提供に努めていく。



▲死亡届の受付時に配布するリーフレット